

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2018/02/05

世界的な株価調整モードの影響は

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	豪中銀の通貨高けん制を警戒 予想レンジ: 84.500~ 89.500円	2-3
NZドル/円	↘	雲上抜け失敗で反落余地 予想レンジ: 77.800~81.500円	4-5
ランド/円	➡	格下げ回避なるか 予想レンジ: 8.700~9.500円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



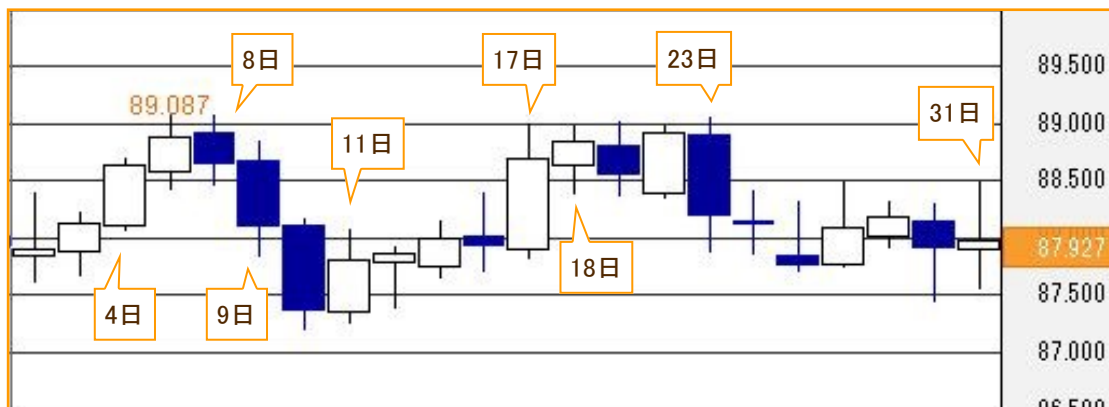
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 1月の推移

AUD/JPY

1月の豪ドル/円相場は87.210～89.087円のレンジで推移。月間の終値ベースではほぼ横ばいであった。1カ月間の値幅は1.877円にとどまり2006年11月以来の小ささを記録。予算の失効により米政府機関の一部が一時閉鎖に追い込まれた事や、ムニューシン米財務長官が「ドル安は良い事だ」と発言した事などからドルが全面的に弱含む中、豪ドル/米ドルが上昇した(一時2015年5月以来の高値を付けた)が、ドル/円は下落した。結果的に豪ドルと円の間には強弱が付きにくく、豪ドル/円は狭いレンジの中でもみ合った。



四本値

OPEN	87.848
HIGH	89.087
LOW	87.210
CLOSE	87.989

4日	日経平均株価が前日比+741円の大幅高となり、大発会の上げ幅としては22年ぶりの大きさとなった。その後も欧米市場の株価が軒並み上昇するなど、世界的な株高の流れの中で豪ドル高・円安が進行した。
8日	豪政府は、2018年の鉄鉱石価格が世界的な供給増加と中国の需要鈍化を背景に前年の水準を20%下回るとの見通しを示した。
9日	豪11月住宅建設許可件数が前月比+11.7%と減少予想(-1.3%)に反して大幅に増加すると一時豪ドル買いが強まった。しかし、日銀が定例オペで超長期債の買入れを前回から減額(「10-25年」と「25年超」を100億円ずつ)した事を受けて円買いが活発化すると豪ドル/円は下落に転じた。市場は日銀の動きを「ステルス・テーパリング(密かな緩和縮小)」と受け止めた模様。
11日	豪11月小売売上が前月比+1.2%と、2013年2月以来の高い伸びを記録。市場予想(+0.4%)を大幅に上回った事を受けて豪ドル買いが強まった。
17日	豪11月住宅ローン件数が前月比+2.1%と市場予想(±0.0%)を大幅に上回ると豪ドル買いが強まった。またNYダウ平均が300ドル超上昇し、史上初めて終値で26000ドル台を突破した事も豪ドル買い・円売りを後押しした。
18日	豪12月雇用統計は、就業者数が3.47万人増(前回:6.36万人増、予想:1.50万人増)、失業率が5.5%(前回、予想ともに5.4%)であった。就業者数が予想を上回った事から豪ドル買いが先行したが、失業率の悪化などが重しとなり伸び悩んだ。なお、中国12月国内総生産(GDP)は前年比+6.8%(市場予想+6.7%)、2017年通年のGDPは+6.9%と7年ぶりに前年の伸びを上回った。
23日	米国が22日に太陽光パネルなどへの緊急輸入制限(セーフガード)を発動した事に対し、中国政府が「強烈な不満」を表明。米中貿易摩擦の懸念からリスク回避の動きが強まり豪ドルに売り圧力が加かった。
31日	豪10-12月期消費者物価指数は前期比+0.6%、前年比+1.9%といずれも予想(+0.7%、+2.0%)に届かなかった。ただ、豪中銀(RBA)が重視する基調インフレは前年比+1.9%と前期(+1.85%)から僅かに加速していた事もあって豪ドルの下落は一時的だった。

日経平均

OPEN	23073.73
HIGH	24129.34
LOW	23065.20
CLOSE	23098.29

NYダウ平均

OPEN	24809.35
HIGH	26616.71
LOW	24741.70
CLOSE	26149.39

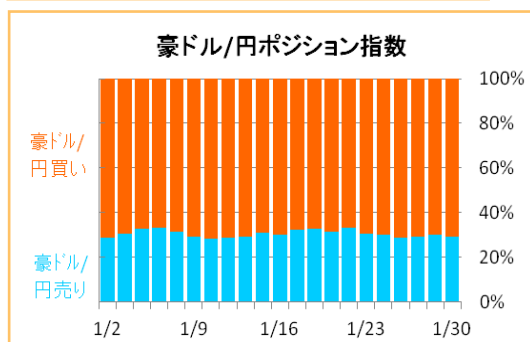
上海総合指数

OPEN	3314.031
HIGH	3587.032
LOW	3314.031
CLOSE	3480.833

豪10年債利回

OPEN	2.630%
HIGH	2.888%
LOW	2.630%
CLOSE	2.813%

1月のポジション動向



2月の豪州・中国の注目材料

- ・1月中国財新製造業PMI(1日)
- ・12月豪住宅ローン件数(9日)
- ・12月豪住宅建設許可件数(1日)
- ・RBA四半期金融政策報告(9日)
- ・10-12月期豪生産者物価指数(2日)
- ・1月豪雇用統計(15日)
- ・12月豪貿易収支(6日)
- ・RBA議事録(20日)
- ・12月豪小売売上高(6日)
- ・2月中国製造業PMI(28日)
- ・RBAキャシュターゲット(6日)
- ・1月中国貿易収支(8日)

2月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

豪州経済は雇用や小売などが堅調に推移する半面、物価の伸びは緩やかで、10-12月期消費者物価指数は前年比+1.9%と、豪中銀(RBA)のインフレ目標レンジを依然として下回っている。RBAは2月6日に2018年最初の理事会を開催し、9日には四半期金融政策報告を発表するが、こうした中で現在の中立的な金融政策スタンスを変更する可能性は低いだろう。ただ、豪ドル相場はRBAが夏季休暇中の今年1月にかけて大きく上昇。前回(昨年12月9日)の理事会以降に、最大で約8.5%も豪ドル高・米ドル安が進んでいることから、通貨高けん制を強める可能性がある。RBAは12月声明で「豪ドルは、過去2年間に推移していたレンジ内にとどまっている」としながらも、「通貨が上昇すれば、経済活動の好転とインフレ率の上昇は現在想定されているペースより緩やかになる」としていた。豪ドル/米ドル相場は1月末に0.8135ドル前後まで上昇して2年8か月ぶりの高値を付けた事に鑑みれば、RBAが通貨高けん制のトーンを一段上げてもおかしくないだろう。なおRBAは、2015年の前半の声明に「通貨安が必要である」とするダイレクトな通貨安誘導の文言を盛り込んでいた。

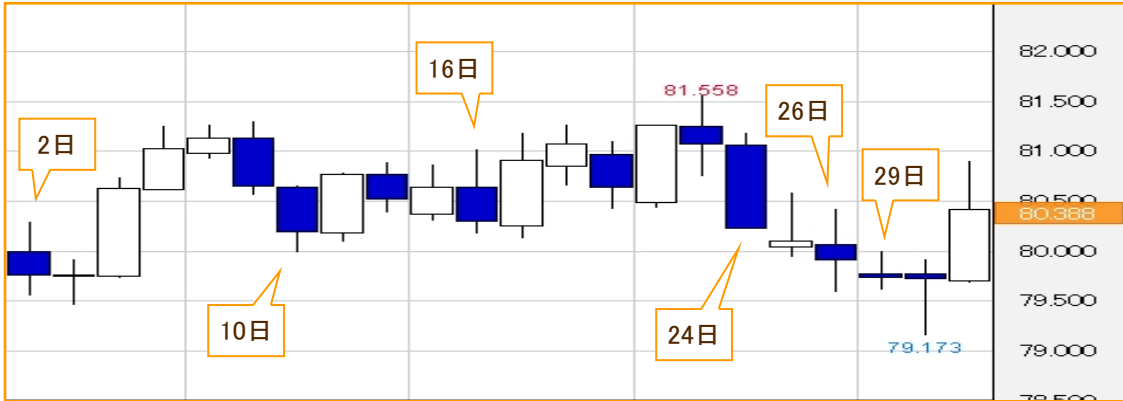
そのほか、リスク選好通貨である豪ドルにとって、株価動向は重要な材料だ。2月に入り米国を中心に株価が下落基調となっており、こうした動きが一時的なものか見極めたい。(神田)

(予想レンジ: 84.500-89.500円)

NZドル/円 1月の推移

NZD/JPY

1月のNZドル/円相場は79.173~81.558円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.6%の上昇(NZドル高・円安)となった。日銀が国債買い入れオペを減額した(9日)事や、黒田日銀総裁が2%の物価目標について「ようやく目標に近い状況にあると思う」と発言(26日)した事などから、日銀も他の先進国中銀に歩調を合わせて緩和縮小(出口戦略)に動くとの思惑が浮上。そうした見方による円高と、資源高・株高を背景とするNZドル高がぶつかり合う形で、NZドル/円は方向感が出なかった。なお、1カ月間の値幅は2.4円弱と2017年7月(約2.3円弱)以来の小動きであった。



四本値	
OPEN	80.002
HIGH	81.558
LOW	79.173
CLOSE	80.420

2日	NZ乳業大手フォンテラは2日、毎月2回行う乳製品電子入札であるグローバルデーリートレード(GDT)を実施。GDT物価指数は前回比2.2%上昇した。
10日	中国が米国債の購入を縮小・停止するとの報道などからリスク回避の円買いが優勢となり、NZドル/円は下落した。
16日	乳製品の国際価格を示すGDT価格指数は4.9%上昇と、ここ1年あまりで最大の伸びを示した。
24日	終盤に発表されたNZ10-12月期消費者物価指数は、前期比+0.1%、前年比+1.6%と予想(+0.4%、+1.9%)を下回る伸びとなった。これを受けてNZドルが急落した。
26日	黒田日銀総裁が「2%のインフレ目標ないし物価安定目標の達成を非常に難しく、かつ時間のかかるものにした要因は数多くあるが、ようやく目標に近い状況にあると思う」と述べた。黒田総裁の発言を受けて日銀の金融政策正常化観測が再燃する格好となり、円買いが強まった。
29日	NZ12月貿易収支は、6.40億NZドルの黒字(予想:-1.25億NZドルの赤字)であった。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	23073.73
HIGH	24129.34
LOW	23065.20
CLOSE	23098.29

NYダウ平均

OPEN	24809.35
HIGH	26616.71
LOW	24741.70
CLOSE	26149.39

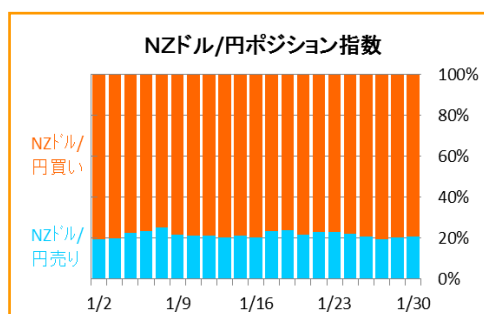
上海総合指数

OPEN	3314.031
HIGH	3587.032
LOW	3314.031
CLOSE	3480.833

NZ10年債利回り

OPEN	2.722%
HIGH	2.989%
LOW	2.722%
CLOSE	2.899%

1月のポジション動向



2月のNZの注目材料

- ・12月NZ住宅建設許可(1日)
- ・NZフォンテラ入札(6日、20日)
- ・10-12月期NZ雇用統計(6日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(7日)
- ・RBNZ2年インフレ予想(14日)
- ・1月NZ企業景況感(PMI、15日)
- ・10-12月期NZ生産者物価指数(19日)
- ・1月NZ貿易収支(26日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

2月の見通し

1月のNZドル/円相場は81円台半ばまで値を上げる場面が見られるも一時的。月を通してみると小動きではあったが、昨年後半からの上昇局面の中でこうした動きが出たことで、2月は反落に備える必要が出てきたと見る。2月2日終了時点では、週足の一目均衡表の雲上限を割り込んで転換線(79.248円)まで下押す場面が見られた。仮に同線を明確に割り込むようならば、雲下限(78円台前半)割れが試されるだろう。

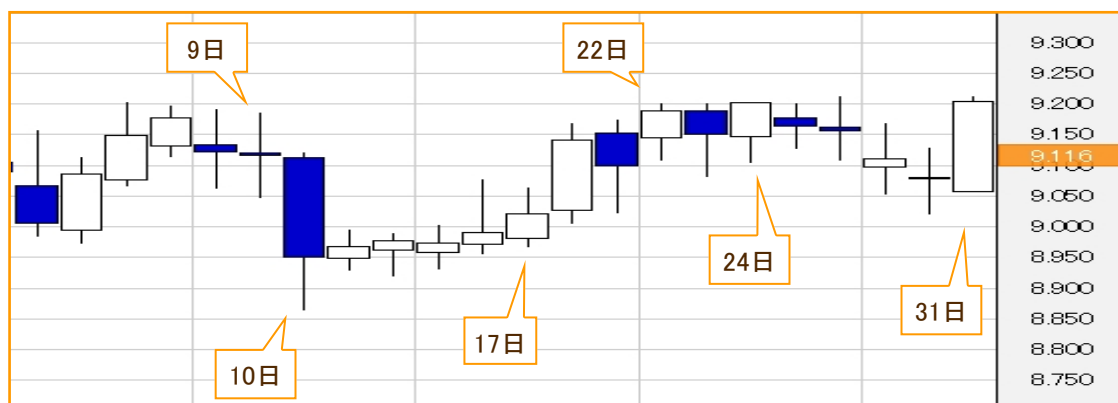
なお、今月のNZ中銀(RBNZ)の金融政策発表について、金利据え置きがコンセンサスとなっている。NZドル/米ドル相場は、1月下旬に一時2017年8月以来の高値となる0.7430ドル台まで上昇している。声明でNZドル相場の水準について言及があるか注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 77.800~81.500円)

ZAR/JPY

ランド/円 1月の推移

1月のランド/円相場は8.866～9.213円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.3%の上昇(ランド高・円安)となった。ズマ南ア大統領の早期退陣期待がランド相場を支える展開が続いており、月足は3カ月連続で陽線引けとなった。日銀が国債買い入れオペを減額した(9日)事や、黒田日銀総裁が2%の物価目標について「ようやく目標に近い状況にあると思う」と発言(26日)した事などから、円高に振れる場面も見られたが、ランド高の流れは変わらなかった。世界的な株価上昇や国際商品価格の上昇もランド相場を支援したようだ。



四本値

OPEN	9.067
HIGH	9.213
LOW	8.866
CLOSE	9.206

9日	南アフリカのズマ大統領と同じ名前の人工衛星が行方不明になった事をきっかけに、大統領の辞任報道が流れた。これに反応してランド買いが優勢となるも、誤報である事が明らかになると反落した。
10日	ズマ大統領の早期退陣期待が高まる中、南ア与党アフリカ民族会議(ANC)の全国執行委員会で、大統領の早期退陣について協議しなかった事が明らかになると、これを嫌気して8.80円台まで一時急落した。中国が米国債の購入を縮小・停止するとの報道などからリスク回避の円買いが優勢となった事も重しとなった。
17日	南ア準備銀行(SARB)は市場予想通り、政策金利の据え置き(6.75%)を決定。利下げ票は前回の二票から一票に減少した。声明で「しばらく南アフリカランドは、政局に敏感な動きになる」「政府の財政への取り組み次第で、格下げリスクはまだ残る」「短期的なインフレは目標レンジの中間で維持」「原油高にもかかわらず、インフレ見通しは改善」などが明らかとなった。なお、南ア11月小売売上高は、前年比+8.2%と予想(+3.5%)を大幅に上回った。
22日	エース・マガシユルANC事務局長が「ズマ大統領を任期前に退任させるかどうかを決める手続きに入った」事を明らかにした。これに反応してランドは強含んだ。なお、国際通貨基金(IMF)が世界経済見通しを公表し、南アフリカの2018年の経済成長率を0.9%、19年は0.9%と、10月時点(1.1%、1.6%)から下方修正した。
24日	南ア1月消費者物価指数は市場予想通り前年比+4.7%となり、前月(+4.6%)より伸びが加速した。
31日	「今週末、ANCはズマ大統領の権力移譲について話し合う見通し」との報道に反応してランド買いが優勢となった。なお、南ア12月貿易収支は157億ランドの黒字と予想(101.0億ランドの黒字)を上回った。

日 経 平 均

OPEN	23073.73
HIGH	24129.34
LOW	23065.20
CLOSE	23098.29

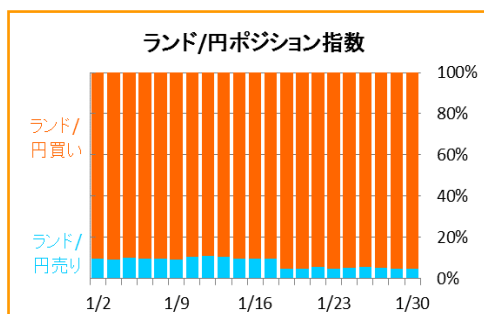
NYダウ平均

OPEN	24809.35
HIGH	26616.71
LOW	24741.70
CLOSE	26149.39

N Y 金

OPEN	1305.30
HIGH	1370.50
LOW	1304.60
CLOSE	1343.10

1月のポジション動向



2月の南アフリカの注目材料

- ・大統領所信表明演説(8日)
- ・10-12月期南ア失業率(13日)
- ・12月南ア小売売上高(14日)
- ・1月南ア消費者物価指数(21日)
- ・南ア政府予算案発表(21日)
- ・ズマ大統領に対する不信任投票(22日)
- ・1月南ア貿易収支(28日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

2月の見通し

2017年12月にアフリカ民族会議(ANC)党首選でラマポーザ氏が勝利した事で改革期待が高まっており、1月もその流れに乗ってランド/円は底堅く推移した。市場が期待するズマ大統領の早期退陣が実現するか、大統領所信表明演説(8日)や不信任投票(22日)と、これらを受けたズマ大統領の去就に注目したい。

また、それ以上に注意すべきは、21日の南ア政府の予算案発表であろう。主な格付け会社の中でS&Pとフィッチは同国の格付けを投機的水準に格下げしており、残るムーディーズも昨年11月時点で格下げ方向で見直すかを発表している。同社が指摘した経済成長見通しや財政状況の悪化に歯止めを掛けられる予算案を発表できるかが焦点だ。仮に同社も格下げに踏み切ると、南ア国債は投資適格級の格付けを完全に失う事になる。その場合、同国債は世界国債インデックス(WGBI)から外れ、このインデックスをベンチマークとして債券運用を行う機関投資家から、機械的な南ア国債と南アランドの売りが出る可能性もある。(川畑)

(予想レンジ:8.700~9.500円)